

薬用作物の生産拡大及び生薬の一貫加工・販売

夕張市 株式会社夕張ツムラ

農林水産省 北海道農政事務所

生産経営産業部事業支援課 なかむら 中村 てつや 哲也



1. はじめに

北海道の中央部に位置する夕張市で、漢方薬の原料である生薬を生産している株式会社夕張ツムラを紹介します（写真1）。

株式会社夕張ツムラは、薬用作物の栽培から生薬の加工調製・選別加工までの一貫した生産拠点として平成21年に設立されました。

生薬生産は、薬用作物の栽培からはじまり、加工調製されて製品となるまで、多くの工程が必要です。

株式会社夕張ツムラで生産された生薬は、株式会社ツムラが提供する漢方製剤となります。



写真1 株式会社夕張ツムラ外観

2. 株式会社夕張ツムラ設立にあたって

生薬を保管するのに適した冷涼な地であり、大規模栽培（写真2）が可能であることから北海道に参入することになりました。

当時、高速道路（道東道）は夕張までしか開通していませんでしたが、その先の延線が見込まれていたこともあり、物流面も考慮し北海道の

中心部である夕張市を参入地に選定しました。

財政破綻にあった夕張市で共に発展していきたいという当時の株式会社ツムラ社長の思いも後押しとなりました。

冷涼な地に適し、輪作体系に組み込める品目の選定と、賛同してもらえる生産者の確保が課題でしたが、元々株式会社ツムラが北海道で栽培された薬用作物を使用していた素地があったため、生産団体とも相談でき、無事参入できました。

また、自社農場も夕張市及び滝川市にて営農しており、生産も担っています。



写真2 薬用作物圃場

3. 総合化事業計画の認定等

総合化事業計画の概要は、自社農場と道内のJA等が連携して薬用作物の生産拡大に取り組み、自社の加工施設で一貫加工し、生薬として製薬会社に販売するというものです。

薬用作物を生産する農業者の所得向上と冬期間の雇用創出を実現するモデル事業として取り組み、北海道における薬用作物の生産拡大

の加速化に繋がたいとして平成 27 年に申請し、認定されました。

計画ではトウキ、シャクヤク、オタネニンジンを生産する予定でしたが、シャクヤク、オタネニンジンは栽培年数が長く、輪作体系になじまないため断念しました。

現在、株式会社夕張ツムラで扱う生薬はセンキュウやトウキ等 8 品目で、北海道、東北エリアから同社に出荷されます。

工場の延べ床面積は約 1 万 6,000 平方メートル、およそ 2,000 トンの生薬が保管可能です。

2024 年 4 月時点で 68 人の社員が在籍し、うち夕張市内の雇用者は 19 人と地域の雇用にも寄与しています。

また、岩手県には東北地方の契約農家分を集約する事業所があります。

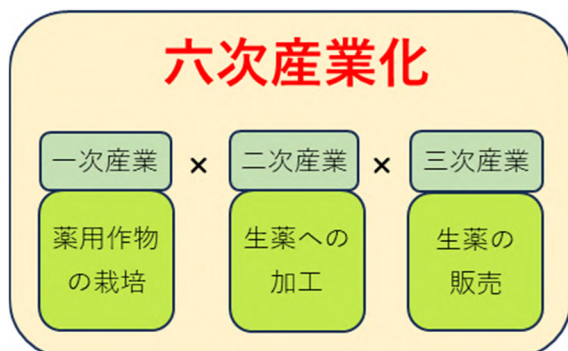


図 1 株式会社夕張ツムラの六次産業化の取組概要

4. 生薬の生産・加工・保管

原料の生産は、夕張市と滝川市にある自社農場での生産と、契約生産者による生産があります。

栽培農機は既存のものを工夫して、アタッチメント交換等で使用できるようになり、作りやすい環境が整備されています。

工場への持ち込みは、生のまま受け入れているものと、生産者が乾燥させてから受け入れているものがあり、スライスしてから生の物は乾燥し、選別を経て生薬として保管します。

製造工程は次のとおりです。

- ① 収穫された薬用作物は傷みを防ぐため室温 5℃以下で保管され、順次加工を待ちます。
- ② 生の薬用作物を乾燥しやすいようにスライスします。
- ③ 温風乾燥機に入れ乾燥させます。それぞれの薬用作物の形状に合わせた機械を用います。
- ④ 機械や熟練者の目によって異物や不良品を除去します。
- ⑤ 選別を終えたのち、品質保持のため低温・低湿下で保管します。
- ⑥ 選別品の全ロットに対し、品質試験を実施します。

ツムラグループで定めた品質基準を満たすものだけが、医薬品の原料である「原料生薬」として株式会社ツムラに出荷されます。



写真 3 目視による選別



写真 4 生薬保管倉庫

5. 今後の計画

国内の漢方薬需要は増加するとして、2025年には生薬保管容量を現在の2倍の約4,500トンに増強する計画です。

また、写真3のように熟練者が目視により選別している工程を自動化(生薬自動選別装置を導入)することも現在検討しています。

課題としては、現在生産している薬用作物が温暖化により生産地に適さなくなった場合の生産手段や代替薬用作物の検討です。

冷涼な地としての利を生かした取り組みと、地域発展のための努力を継続していきたいとのことです。

6. 最後に

株式会社夕張ツムラ 代表取締役社長 藤原 直樹氏の言葉を紹介します。

「現在、この地で営業し発展できているのも、すべて周りの皆様のお力あつてのことです。

これからも地域事業者として、地域の発展に寄与できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。」